

平成 20 年 7 月 7 日

各 位

神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1
オンコセラピー・サイエンス株式会社
代表取締役社長 富田 憲介
(コード番号 4564 東証マザーズ)
(問い合わせ先)取締役管理本部長 山本 和男
電話番号 044-820-8251

新生血管阻害剤OTS102 第 I 相臨床試験終了のお知らせ

当社と扶桑薬品工業株式会社が平成 17 年 4 月 4 日に契約を締結し、当社において実施いたしております新生血管阻害剤 OTS102 の第 I 相臨床試験が終了いたしましたので、お知らせいたします。

第 I 相臨床試験のデータを取りまとめた結果、本剤の安全性が確認できました。このことより、臨床的有用性を検討する第 II 相臨床試験へ進むことを決定いたしました。

今後は、今秋に第 II 相臨床試験を開始することを目指します。

「新生血管阻害剤OTS102 について」

悪性腫瘍(がん)は、無秩序に増殖して周辺の正常組織を破壊するとともに、リンパ管や血管を介して遠く離れた臓器に転移します。がんが、このように増殖して生命を脅かすような存在となるためには、自らを養うための血管から酸素や栄養素を取り入れることが不可欠です。そのため、がん細胞は、いろいろな物質を分泌することにより血管をその周辺に新たに作る性質を持っています。これを妨害して腫瘍の増殖を阻むことを目的に開発したのが、新生血管を阻害する薬剤(新生血管阻害剤)で、新しい考え方のがん治療薬として近年注目を集めております。

OTS102 は上に述べた新生血管阻害剤の一種ですが、これまでに他社にて開発されてきたものとはまったく違う作用機序を利用したものです。腫瘍の血管新生に関わる重要な分子であり、癌細胞の生存と増殖に必要な新生血管の内側の細胞(内皮細胞)に高発現し、正常組織にはほとんど発現していないVascular Endothelial Growth Factor Receptor 2(VEGFR2)というタンパクの一部に相当する分子です。その投与により腫瘍への栄養を供給している新生血管内皮細胞に対する強い免疫反応が誘導され、抗腫瘍効果を示すことが動物実験で示されています。また、癌周辺には VEGFR2 を持つ新生血管が多数存在することが多い反面、通常の成熟化した正常血管は VEGFR2 をほとんど持たないことから、OTS102 は癌増殖に関与する血管に対してのみ働く、副作用の少ない薬剤になることが期待されております。

以 上